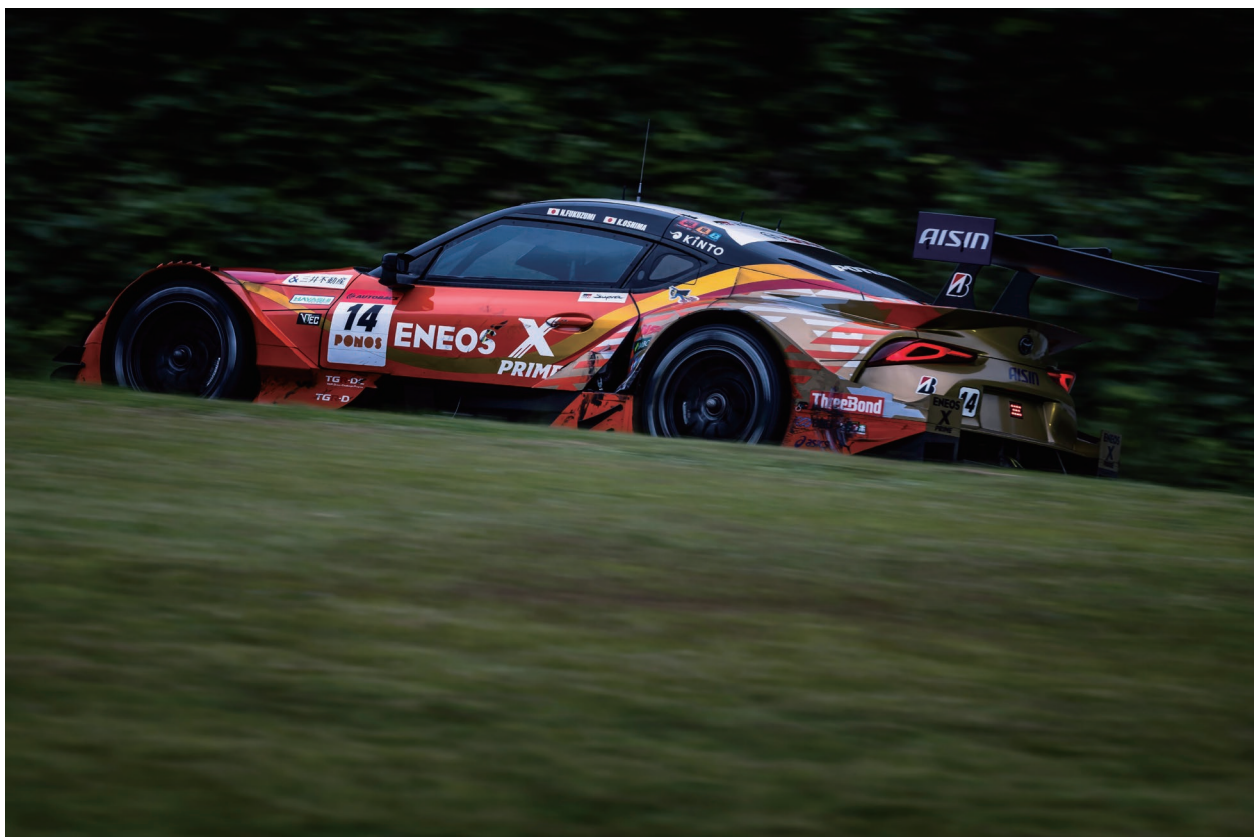




SUGO

2026 AUTOBACS SUPER GT Round 06

2026 SUPER GT 第6戦 スポーツランド SUGO
9月19日(土) ~ 20日(日)

PRACTICE 公式練習

9月19日(土) 天候：曇り／路面：ウエット／ドライ

鈴鹿サーキットで行われた第5戦では、ミスチーム全体でカバーし、8位を獲得したTGR TEAM ENEOS ROOKIE。サクセスウエイトが厳しくなり、勝負どころとも言える第6戦の舞台は、宮城県のスポーツランド SUGO だ。タイトなコースレイアウトもあり、上位進出のためには予選から前に行きたい。そんな一戦に向け、チームは準備を整え9月19日(土)の予選日に臨んだ。

この日のスポーツランド SUGO は、レースウィーク前には雨の天気予報も出ていたが曇り空。ただコースには濡れた部分もあり、滑りやすさが増すなかで午前10時30分から気温22度／路面温度23度というコンディションで公式練習がスタートした。62kgのサクセスウエイトが課せられている ENEOS X PRIME GR Supra は、福住仁嶺がステアリングを握りコースインした後、すぐに大嶋和也に交代。まずはロングラン

をこなしながら、3回のアウトインを行いセッティングの確認を行っていった。「フロントが少しピーキーなところがある」という大嶋の感触だったが、それを修正しながら走行。途中、細かな雨が降り出し、滑りやすい状況のなか、S字カーブで#24 Z NISMO GT500 がクラッシュしたことで一度赤旗中断があったが、再開後は一度ピットでステイ。GT500 クラスの専有走行でふたたび福住が ENEOS X PRIME GR Supra に乗り込み、アタックシミュレーションを行っていった。

僅差のなか、福住は1分10秒175というベストタイムを記録。僅差のなかで6番手につけて公式練習を締めくくった。フィーリングは悪いものではなく、午後の予選に向けて良い感触を得たが、午後には雨が降り出す予報もあった。TGR TEAM ENEOS ROOKIE はどんなコンディションに

なっても対応できるよう、さらなるセッティング改善を行いながら午後に向けて作業を進めていった。



QUALIFY 公式予選

9月19日(土) 天候：曇り／路面：ドライ



この日のスポーツランド SUGO は今にも雨が降り出しそうな状況が続いていたが、午後2時30分から始まった公式予選は雨は降らず、気温23度／路面温度28度というドライコンディションで始まった。

ENEOS X PRIME GR Supra の Q1 を担当したのは福住。「専有走行とはタイヤも違ったので不安はありました」という状況だったが、1分09秒848というタイムを記録し6番手に。まずはきっちりとQ1突破を果たした。「クルマを少しアジャストしたおかげでQ2に進めましたが、ピーキーな動きもあり、

走らせるのは難しかった」という福住のアドバイスを得て、Q2の大嶋はセットアップを変更して臨んだが「明日に向けては良いヒントにはなりませんが、あまり良い方向にはいきませんでした」とやや苦戦。ハイポイント～レインボーコーナーでわずかにタイムロスを感じ、1分10秒318というタイムで10番手となった。「それがなければ7番手くらいだったのでとても悔しいです」と大嶋は振り返ったが、決勝レースに向けて「気持ちを切り替えて追いつきたいと思います」と力強くコメントした。

RACE 決勝レース

9月20日(日) 天候：曇り／路面：ウエット／ドライ

迎えた9月20日(日)の決勝日、スポーツランド SUGO は朝から霧雨が降り続いていた。しかし、昼ごろにその雨は上がり、午後0時から行われたウォームアップ走行はまだ路面は濡れていたものの、レコードラインを中心にグングンと路面が乾き、午後1時30分から行われた決勝レースは、全車がスリックタイヤを装着。セーフティカー先導のもとスタートが切られた。

気温23度／路面温度25度というコンディションのもと5周目にセーフティカーが退去すると、10番手からスタートしたENEOS X PRIME GR Supra は、福住のドライブで前を行く#12 Z NISMO GT500を追いつつ、後方につけた#36 GR Supraを抑えながらレースを続けた。序盤はレコードライン外が濡れていたこともあり順位キープとなっていたが、GT300車両に追いつき始めるとバトルも激化。タイトなSUGOで接触スレスレの戦いを展開し、14周目には9番手に浮上する。ただ、バトルの中でGT300車両とわずかに接触するシーンも。



幸い接触のダメージは少なかったが、その後19周目には#36 GR Supraの先行を許し順位を下げるなど、激しいレースが続けられた。

そんな中、26周目に6番手だった#16 HRC Prelude-GTがGT300車両を避けきれずクラッシュするアクシデントが起き、レースはセーフティカーランとなった。ちょうどピットインが始まろうかというタイミングで、早いチームは32周のセーフティカー退去後すぐにピットインを行っていく。結果的にはこのタイミングでピットインしたライバルたちが大きく順位を上げていった。

ENEOS X PRIME GR Supra は、タイヤのライフもありセーフティカー退去後もピットにはすぐに入ることができない状況もあり、39周を終えピットイン。福住から大嶋に交代した。序盤のGT300との接触の影響でややタイムロスがあったが、大嶋は前半とは異なる種類のタイヤのパフォーマンスにかけ、追いつけをスタートさせた。

ただこの後半に履いたタイヤで大嶋は大いに苦戦を強いられた。「とにかく曲がらない」とペースに苦しみ、前を行く#23 Z



NISMO GT500を追い切れず、耐えるレースが続いてしまう。レース終盤には#64 HRC Prelude-GTが順位を下げたことで11番手に浮上し、さらにペースに苦しみ大きく順位を下げてきた#38 GR Supraを追ったものの、とてもオーバーテイクに至る状況ではなかった。

大嶋は苦しみながらも ENEOS X PRIME GR Supra をチェッカーに導いたが、結果は11位。ポイントには届かず、まさかの無得点で第6戦を終えることになってしまった。タイトル争いも順位が6位に後退。首位とは27点差をつけられてしまった。

しかし、今季は延期された第3戦がまだ残されており、シリーズは残り3戦。まだ挽回のチャンスはある。TGR TEAM ENEOS ROOKIE は試練の後半戦をチーム一丸となり乗り切るべく、次戦オートポリスに向けて準備を進めていく。

VOICE ドライバー／GM／監督コメント



Nirei FUKUZUMI DRIVER 福住仁嶺

「10 番手からファーストスティントを担当しましたが、1 台に先行されたものの何台かわすことができました。最終コーナーで GT300 車両と接触したことでピット作業にも影響が出てしまったのですが、そのあと後半スティントでどうなるかと思っていました。前戦の鈴鹿でタイヤ選択に悩んだところがあり、今回はいつもと異なり第 1 スティントと異なるタイヤを履いたものの、それもあまり良くなかったように感じます。戦略の面もそうですし、ポイントを獲れずに終わったのはすごく悔しいところです。次戦のオートポリスも比較的苦手なコースではあるのですが、今まで苦しんだところを少しでも改善できるように、チーム一丸となって対策していきたいと思います」



Kazuya OSHIMA DRIVER 大嶋和也

「土曜もとても悔しい予選になってしまいましたが、決勝レースもピットインのタイミングが良くなかったようにも感じますし、レース後半、ライバルたちとは違うタイヤに賭けてみたものの、それもちょっとうまくいかず、全然良いところなしでレースを終えることになってしまいました。終盤、なんとか 1 ポイントでも獲りたいと 10 番手を追いかけていましたが、とにかく曲がらないし、ジャダーもひどく、GT300 を抜くのもままならないくらいでした。難しいレースになってしまいましたね。このスポーツランド SUGO もそうだったのですが、次戦のオートポリスもタイヤに厳しいコースで、そういうレイアウトのコースではなかなかうまくいかないです。このままじゃまずいので、なんとかしたいですね」



Daisuke TOYODA GENERAL MANAGER 豊田大輔

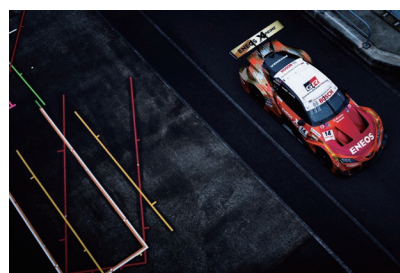
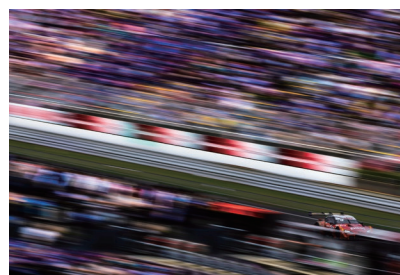
「チームにとっても、すごく悔しいレースになってしまいました。レース序盤は福住選手が僅差のなかでバトルを展開してくれましたが、そこで #36 GR Supra には先行されてしまいましたし、レース後半も逆転を賭けてタイヤ選択を行ったものの、それもうまくいかず、大嶋選手にはすごく難しいレースをさせてしまったと思います。しかし、そんな中でも #36 GR Supra は結果的に 4 位まで追いつけているので、我々には何が足りなかったのか、しっかり考えなければいけないと思います。しかし残り 3 戦、まだ終わっていません。本気で諦めずに、逆転に向けて頑張っていきましょう。そのためには、言い訳は無用。戦う姿勢を貪欲に示しながら、準備していましょう」



Toshiaki TAKEDA DIRECTOR 武田敏明

「このスポーツランド SUGO というサーキット、このコンディションという中で、荒れた展開を予想はしていましたが、なんとかその中でしぶとく、力強くポイントを獲得しようと思っていました。案の定セーフティカーが入りましたが、その後大嶋選手に交代してからのタイヤ選択等々、なかなかうまく噛みあわなかったですね。大嶋選手に苦労させてしまったのは申し訳なく思っています。こういうレース展開のときに 1 ポイントでも多く得点するような戦いをしていけないとこの先も見えないと思いますし、チーム全体で良い方向にもっていけるよう、チーム全体として次の第 7 戦オートポリスに向けて、全力で準備をしていきたいと思っています」

PHOTO GALLERY フォトギャラリー



ROOKIE RACING

SUPER GT
GT500 / TGR TEAM ENEOS ROOKIE

Our activities are supported by all partners

ROOKIE Racing の活動は、多くの皆さまのご協力によって支えられています

ENEOS

AISIN

さあ、街から未来をかえよう
三井不動産
MITSUI FUDOSAN

ThreeBond

docomo Business

MITSUI & CO.

HAYASHI
TELEMPU

いつもさいしよ、アタラシイコト。
VITEC
Creative Power

NSK

SMBC

KINTO

かいけつゾロ

vuteq

TAMIYA

asics

ジャパンボ
チヨコモナカ



ENKEI